

千葉県地震被害想定調査結果について

県では、近い将来、千葉県に大きな影響を及ぼす可能性のある地震に対し、地震動の大きさや液状化危険度、各被害量等について、地域特性を考慮した被害想定を行い、県や市町村の地震防災対策の基礎資料とするとともに、県民や地域・事業者の自助力・共助力の向上に資することを目的とし、最新の社会状況と科学的知見を踏まえ、新たな地震被害想定調査が実施され、令和 8 年 5 月 26 日に調査結果が発表されました。

1 想定対象地震について

想定地震として、千葉県周辺における複雑なプレート形状等を踏まえ、以下の 3 地震が設定されました。

想定対象地震		地震の概要	八千代市の震度
地震名称	規模 (Mw)		
千葉県北西部直下地震	7.3	フィリピン海プレート内 (習志野市と千葉市の境界付近)	西側 6 強 東側 6 弱
大正型関東地震	7.9 (地震動) 8.0 (津波)	陸のプレートとフィリピン海プレートの境界 (相模トラフ沿い)	概ね 5 弱 最大 5 強
房総半島東方沖の地震	8.5	フィリピン海プレートと太平洋プレートの境界	概ね 6 弱 最大 6 強

※前回被害想定 (H28) からの変更点

・「大正型関東地震」の被害想定：前回調査では、被害量は算出せず、震度分布や液状化危険度分布等を示すのみに留めたが、経過年数とともに発生可能性が高まっていることから、詳細な被害の様相を想定する。

・「房総半島東方沖の地震」の新規設定：近年、九十九里平野において発見された津波堆積物に基づく検討から、歴史記録に知られていない大規模な津波をもたらす地震が約 1,000 年前に発生していた可能性が示された(産業技術総合研究所「津波浸水履歴図」)。

この地震について、国による長期評価等は実施されていないものの、発生した場合の千葉県への影響の重大さを鑑み、今回新たに設定する。

2 前提条件について

前回調査時の手法をベースに、国による想定手法や最新データ、知見を踏まえて想定を実施。以下想定シーンを設定。

発災季節・時刻	特徴
冬 5 時	多くの人が自宅におり、住宅被害による死傷者が多くなる
冬 18 時	火気の使用が一年中で最も多く、火災被害が多くなる
夏 12 時	通勤、通学で自宅を離れている。日中の平均的なケース

※それぞれ風速最大 (8 m/秒) と平均 4 m/秒を設定

3 被害想定結果について

千葉県北西部直下地震による主な被害量（冬 18 時，風速 8 m/秒 ※建物被害が最大）

被害想定項目		単位	前回想定 ※（ ）八千代市数値	今回想定
建物被害 （全壊・焼失）		棟	81,200（4,900）	76,000
	揺れ	棟	53,200（3,500）	42,000
	火災	棟	26,200（1,400）	31,800
	液状化・急傾斜地崩壊	棟	1,850（－）	2,120
人的被害		人	2,100（120）	2,400
	死者数	建物倒壊等	660（40）	680
		火災	1,400（80）	1,700
	災害関連死者数			3,800
避難者数 （2 週間後）	避難所	人	33.3 万（19,000）	34.9 万
	避難所外	人	48.4 万（28,400）	52.3 万

【主な増減要因】

○建物被害

- ・揺れによる被害：耐震化の進展により減少
- ・火災による被害：計算手法の見直し（計算メッシュの細分化，初期消火率の変更）などにより増加

○人的被害

- ・死者数は，想定時間帯（冬 18 時）の在宅率の上昇により，木造建物の倒壊等による被害量が増えたため，増加
- ・災害関連死者数は，東日本大震災や能登半島地震における災害関連死者の発生状況に基づき，今回新たに推計
- ・加えて本市においては，人口増加による増加が推察される

4 今後の対応について

5 月の発表については，概要の公表に留まっており，市町村ごとの詳しい被害情報などについては，後日公開となる予定です。

本市の今後の対応としては，本調査をもとに今後修正される「千葉県地域防災計画」と整合を図り，八千代市地域防災計画の修正を来年度行う予定です。

5 本資料について

「千葉県地震被害想定調査結果（概要）」より抜粋

千葉県 HP：<https://www.pref.chiba.lg.jp/bousaik/higaisoutei/67higaisoutei.html>